Breeding report 飼育レポート

report.1 ユキヒョウ「ヒカリ」の旅立ち

飼育展示担当（動物専門員）　千葉 可奈子

母親のアサヒと離れ、一人暮らしにもすっかり慣れた頃、ヒカリのお嫁入りの話が決まりました。搬出先は、以前ヒカリの祖父（ヤマト）が暮らしていた札幌市円山動物園です。

2022年に誕生してから、たくさんの人たちにかわいがられ、愛されてきたヒカリ。担当者としても華々しく送り出してあげたいと、トークイベントや思い出をつづったアルバムを展示するなど、いろいろなイベントを準備しました。ヒカリのお別れ会の日は、あいにくの天候でしたが、それにも関わらず県内外からたくさんの方々が集まってくれました。

10月21日、いよいよヒカリの搬出予定日です。緊張しながら搬出作業を進めていましたが、麻酔がなかなか効かず、ヒカリとスタッフの安全を考えた結果、搬出は一日延期になりました。翌日、無事に搬出用の檻に入ったヒカリは少し不安げな表情を見せながらも生まれ育った大森山を旅立って行きました。

お別れ会ではヒカリの大好物やプレートをプレゼントしました

10月23日、札幌市円山動物園からヒカリが無事に到着したとの連絡が入りました。檻から出たヒカリは元気そうで、北海道で初めて食べた鹿のお肉がおいしかったのか、新しい担当さんに「もっと、ちょうだい」とせがむ様子も見られたそうです。

名前が決まったのも、新天地に到着したのも10月23日の「世界ユキヒョウの日」という奇跡を起こしたヒカリ。これからのヒカリの活躍が楽しみで仕方ありません。

report.2 ビーバーの巣作りに挑戦

飼育展示担当（動物専門員）　宮原 星

アメリカビーバーは動物界では有名な建築家で、野生では枝や草、土などを使い、巣を作ります。動物園でもその行動を引き出し、より野生に近い姿を展示したいと思い、私の挑戦が始まりました。

挑戦といっても、私はビーバーに巣の材料を提供するだけで、あとはビーバーにお任せです。そのため、課題となったのが衛生面です。今までは毎日巣材を回収して新しいものに交換していましたが、できるだけ触らないようにしないといけません。最初は汚れがひどくなったら巣の一部を壊して清掃に入っていましたが、徐々にビーバーが自ら汚れた巣材を巣外に出してくれるようになりました。

春から始まった巣作りは、秋に形が安定しました。巣はドーム状で、中には座布団くらいの広さの寝床があります。寝床はビーバー手作りの木くずがふかふかに敷き詰められていました。その後も巣作りに終わりはなく、ビーバーたちは毎日必ず巣の掃除や細かな修正、補強を行っていました。野生では何年もかけて作られ、代々受け継がれていくそうです。繁殖制限のため巣を解体する際、上に乗ってみましたが全く壊れないほど頑丈でした。

今後もビーバーがよりビーバーらしく過ごし、お客さまに野生に近い生態をご覧いただけるよう、挑戦していきたいです。

解体前のビーバーの巣

巣材にはこんなにも多くの木材が使われていました

report.3 カンガルーの繁殖における取り組み

飼育展示担当　長谷川 宗

カンガルーはオスとメスを同居させると比較的容易に繁殖させることが可能ですが、増えすぎてしまうと1頭あたりの飼育スペースが狭くなり病気が発生しやすくなってしまいます。そのため、2019年からオスとメスを別々の展示場に分けて飼育しています。

しかし、徐々に頭数が減ってしまい2023年の春から再度繁殖を試みることになりました。適切に繁殖を制限するため、全部で8頭いるメスのうち2頭をオスと同居させる方法で1頭を無事に繁殖させることに成功しました。

2024年には逆の方法で、オス1頭をメスの群れと同居をさせる方法を試みました。この方法で注意しなければならないことは、カンガルーは着床遅延が可能な動物であることです。着床遅延とは、母親がすでに育児中の場合や食物の供給が不十分な場合に、適切な時期に子どもを産むことができるよう、交尾後の受精卵の着床を遅らせることです。これにより妊娠中でも交尾が可能なため、発情が2回来る前に同居を終了しないと子どもが増えすぎてしまう可能性があります。このことから同居期間はカンガルーの性周期（約35日）にあわせて1か月間としました。

この方法で2024年秋には2頭の赤ちゃんが生まれ、現在元気に暮らしています。今後も1頭1頭が健やかに暮らせるよう飼育員一丸となって計画的な繁殖を行い、適切な飼育管理を行っていきます。

2019年にメスの展示場をお弁当広場側に新設

report.4 これからも花子と一緒に!

飼育展示担当（動物専門員）　堀籠 麻子

2024年6月5日、仙台にいた花子が無事帰ってきました。

帰ってすぐの頃はふるさと大森山の環境を思い出すかのようにいろいろな物を確かめながら動き回る印象がありました。日中は飼育員や来園者がいるため落ち着いていることが多かったのですが、夜間は一人だと不安な様子で、なかなか横臥（おうが）睡眠（横になって寝ること）が見られませんでした。

横臥睡眠は落ち着いた状態で過ごせていることの指標にもなるため、給餌回数や一緒に過ごす時間などを増やして安心できるようにしたり、古タイヤなどの遊び道具を置いたりして筋力トレーニングを行い、日中にたっぷりと体を動かすようケアをしてきました。そのためか、7月に入ると横臥睡眠の時間と回数が急激に増えました。今ではほぼ毎日しっかり寝て休んでいるのを確認しています。

声かけなど意思疎通を図りながら
行う採血トレーニング

賑やかな雰囲気に
包まれてのまんまタイム

余談ですが、花子はエサを「んー、んー」と音を発しながら食べたり、声をかけると「ぶぉーーん」と返事をしてくれたりします。騒がしすぎるのは苦手ですが、賑やかな雰囲気は好きなようでよく人の話を聞いています。みなさんも遊びに来た際にはどうか花子にやさしく声をかけてあげてください。もしかしたら返事を返してくれるかもしれません。

これからも花子が元気に過ごせるようゾウ担当をはじめ職員、来園者の方々にも協力してもらいながらケアしていきたいと考えています。